

## 岩手県立二戸病院電気設備保守点検業務仕様書

### 1 保守点検業務の実施方法

- (1) 本仕様書による他、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築保全業務共通仕様書（令和5年度版）に基づき実施する。
- (2) 受託者は、本仕様書に基づき施設管理責任者、電気主任技術者、製造元担当者と入念に打合せを行い、実施日程表を作成し承認を受けたうえ、病院業務に支障ない時間帯において病院係員立会いのもとに実施する。
- (3) 受託者は、保守点検業務を実施するに当たり、電気事業法、建築基準法、消防法及びその他関係法令を遵守し、誠実、かつ、適正に遂行する。

### 2 保守点検業務場所

岩手県立二戸病院 岩手県二戸市堀野字大川原毛38番地2

### 3 保守点検業務の種類及び設備数量

- (1) 受託者が行う保守点検業務の種類は、1-1表に掲げる区分に応じ、同表の左欄に掲げる電気設備の保守点検業務を点検周期に基づき実施する。

#### 1-1表

電気設備等の保守点検業務の種類	点検周期
1-1無停電電源装置設備	年1回
1-2地震計設備	年1回
1-3自家発電機設備	年2回

実施時期は、別途病院長の指示する日とする。

- (2) 設備数量は別紙点検対象機器一覧表による。

### 4 保守点検業務基準

- (1) 保守点検業務の基準は本仕様書による他、1-1表の区分による保守点検業務の種類毎に、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築保全業務共通仕様書（令和5年度版）に基づき実施する。

ただし、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築保全業務共通仕様書（令和5年度版）のうち、点検周期が複数年のものを除く。

- (2) 自家発電設備等を含む防災設備については、消防法及びこれに基づく総務省令等の定めによる。また、消防機関への点検結果報告書を作成すること。
- (3) 定期点検の項目については各区分の定期点検仕様書による。

## 5 保守点検業務報告書

- (1) 業務の結果を点検周期により実施した都度、保守点検業務報告書を作成し速やかに施設管理責任者に提出する。
- (2) 保守点検業務報告書の様式は、1-1表の区分による保守点検業務の種類毎に、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築保全業務報告書作成の手引(令和5年度版)に基づく書式等による。

## 6 契約期間内の措置

本契約期間中に、保守点検業務対象設備に故障等の異常が生じた場合は、ただちに技術員を派遣し調査、修理を実施する。

## 7 修理等の措置

保守点検業務及び故障等の異常が生じた場合の調査の結果、部品等の交換による修理が必要な場合は、次の材料を除き別に見積をして受注のうえ施工する。

- (1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築保全業務共通仕様書(令和5年度版)に基づく、保守に必要な消耗部品又は材料、油脂等。
- (2) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築保全業務積算基準(令和5年度版)に基づく、直接物品費に係る資機材。

## 点検対象機器一覧表

### 【無停電電源装置】

	品名	形式	数量
UPS	無停電電源装置	スコットTR 100KVA	2
	蓄電池	SNS-300 300Ah 2V電池 174セル	1

### 【地震計】

	品名	形式	数量
地震計	デジタル強震計	SMCA-MDU	1
	地上用検出器	JEP-8A3	3

### 【自家発電機】

	品名	形式	数量
機関	1号機機関	12LAAL-UT 618kw-1500min-1	1
	2号機機関	12LAAL-UT 618kw-1500min-1	1
発電機	1号発電機	TAKL-DEK 625kVA-6600V-54.7A-50Hz-4P-1500min-1	1
	2号発電機	TAKL-DEK 625kVA-6600V-54.7A-50Hz-4P-1500min-1	1
発電機盤	1.2号自動始動発電機盤	6600V	1
	1.2号連絡遮断器盤	6600V	1
	発電機補機盤	200V	1

## 発電機定期点検仕様書

## 【機関】

対象部位等	機器名等	主な点検項目	備考
外観点検	設置状況	周囲の整理整頓、状況点検	
		区画、隔壁等破損の有無点検	
		水の浸透、漏れ等の有無点検	
		換気装置の機能点検	強制排気
		照明設備及び機能点検	
		標識の表示状況の点検	
	表示	表示の適否確認	
	自家発電装置	変形、損傷、脱落、漏れ等の有無点検	
	始動用空気圧縮設備	空気だめ、圧縮機の変形等異常有無点検	
		空気だめ、圧力の点検	空気だめ容量300ℓ圧力2.94MPa
	制御装置	周囲の整理整頓、状況点検	
		外形上で変形等の異常有無点検	
		電源表示灯の点灯有無点検	
		開閉器及び遮断器の開閉位置適否試験	
計器類	変形等の有無、及び指示値の適否点検		
燃料油及び冷却水タンク	外形上で変形等の異常有無点検		
	規定の燃料油量があるかの点検	1720/1950ℓ	
	規定の冷却水量があるかの点検		
排気筒	可燃物が放置されていないか周囲状況の点検		
	外形上で変形、損傷、支持金具の緩み等有無点検		
	貫通部の変形、損傷、脱落等の異常有無点検		
配管	変形、損傷、脱落、漏れ等の有無点検		
予備品等	予備品及び回路図等の備付状況点検		
機能点検	自家発電装置	潤滑油の種類及び量の確認	
		タンク、ラジエタ等冷却装置の機能点検	
		無負荷運転での各部点検性能チェック	定格回転数で5～10分運転
		手動停止装置の機能点検	停止後、再始動しないこと
	始動用空気圧縮設備	潤滑油の種類及び量の確認	
		確実に作動するか否かの確認	
計器類	設備を運転し、各計器の作動、指示値の点検	定格回転無負荷運転	
耐震措置	アンカーボルト、防振装置、可とう管継手等耐震措置の適否、変形、損傷等の異常有無点検		
燃料系統	燃料噴射ポンプ	ラック目盛位置・摺動点検	摺動点検
	燃料タンク	沈殿物・水分の排出	ドレン抜き実施
	移送ポンプ	燃料移送ポンプ作動	
潤滑油系統	機関潤滑油	油量点検(検油棒上部目盛迄)	
	潤滑油濾し器	ドレン抜き	
	潤滑油冷却器	外観目視点検(錆・損傷の有無)	
	ガバナ	油量点検	
	燃料噴射ポンプ	油量点検	機関からの強制注油
冷却水系統	冷却水ヒーター	断線・接点等の点検	抵抗測定
	湯調弁	作動確認	
始動空気系統	空気層	空気層配管漏れ点検、ドレン抜き	
	コンプレッサー	コンプレッサーノ作動確認	
シリンダヘッド弁装置	吸排気弁	弁バネ・バネ受点検	
调速装置	调速リンク	注油および摺動点検	摺動点検およびグリースアップ実施
過給系統	空気冷却器	外観目視点検、錆・損傷の有無	
附属装置	回転計	機関停止中指針が零を指しているか	
	潤滑油・弁腕油圧力計	機関停止中指針が零を指しているか	
	ラジエター関係	ファンの羽根取付鉋に弛み点検	
	煙導	消音器のドレン抜き	
給排気弁隙間点検 保護装置試験 (機関停止・表示 ベル)	吸排気弁L・R側	規定値吸気0.25mm 排気0.40mm	調整記録表作成
	潤滑油圧力低下	設定値0.20Mpa	
	冷却水温度上昇	設定値100℃	
	過速度	設定値115%	
	始動渋滞	16秒	
始動及び停止試験	非常停止	即停止	
		設定タイムスケジュールどおりの始動・停止確認	

## 発電機、発電機盤定期点検仕様書

## 【設置状況】

対象部位等	機器名等	主な点検項目
発電機室	水の浸透	設置場所への水の浸透、水溜等の有無
	整理整頓	周囲の整理整頓、状況点検
	換気	換気機能の異常の有無
	照明	照明機能の異常の有無
	各種の標識表示	規定の標識類の異常表示の有無
	消火器	規定の消火設備の確認
	ピット	ピット内の整理整頓

## 【発電機関係】

対象部位等	機器名等	主な点検項目
固定子	外観、内部一般	錆、損傷、汚れ、腐食等の異常の有無
	据付他各部ボルト	締付の緩み、腐食等の有無
	配線、配管	外傷、変色、腐食、水、油漏れ等の有無
	端子箱	端子の緩み、過熱の痕、配線の過熱による変色の有無
	固定子巻線	巻線の表面汚れ、あて傷、ワニス剥がれ等の有無
	付属品	スペースヒータ、TGその他の異常の有無
軸受	油漏れ	軸受箱からの油漏れによる本体内外の汚損の有無
	軸受音	回転音の異常の有無、グリース補充の際には注入過剰による過熱漏れの有無(ボールベアリング型) ※聴音棒による
	軸絶縁	絶縁構造の異常の有無
交流励磁機	外観、内部一般	汚損、錆、傷等が無いこと
	固定子巻線	汚損、傷、過熱による変色等が無いこと
	端子箱、配線	端子の緩み、配線の損傷、汚損等がないこと
回転子	軸表面	甚だしい錆、損傷等が無いこと
	フランジ	当て傷その他の異常がないこと
	主極巻線	汚損、変形、絶縁剥がれの有無
	主極磁極	コイルブランケット、ダンパー等異常がないこと
	励磁機巻線	汚損、損傷、絶縁剥がれ等がないこと
	回転整流器	整流器表面が汚損していないこと
回転計発電機 接地 運転	取付ボルト接続	電線、端子の損傷の有無、締め付けねじの緩みの有無
	接地線	電線、端子の損傷の有無、締め付けねじの緩みの有無
	運転音	起動音、運転音の異常の有無
	振動	起動中、運転中ともに異常振動がないこと
	通風	冷却通風が正常であること

## 【発電機盤関係】

対象部位等	機器名等	主な点検項目
盤の外観 内部一般	外観、内部一般	錆、変形、破損、塗装汚れ・剥がれ等の有無
	盤内清掃	掃除機、ウエス、刷毛等での清掃
	盤面計器、器具	異常の有無
	扉	スムーズに開閉出来る
配線	主回路	端子のねじの緩み、絶縁保護の劣化、汚損の有無
	制御・補機回路	端子のねじの緩み、過熱の形跡、絶縁台の焼・汚損、吸湿等がないこと
遮断器	遮断器本体発電機遮断器	錆、可動部のセリ、主・補助接点荒れ、その他の異常の有無 投入回数記録
	遮断器本体連絡遮断器	錆、可動部のセリ、主・補助接点荒れ、その他の異常の有無 投入回数記録
器具類	接触器 補助継電器	動作不良、過熱、その他異常の有無
	計器用 CT、VT	異常の有無
	ヒューズ	断線の有無
	抵抗器	断線、劣化の有無
	表示灯	断線の有無
接地 運転	調整器類	異常の有無
	接地線	電線、端子の損傷の有無、締め付けねじの緩みの有無
	電圧	電圧設定器を急変したときに電圧の整定が速く乱調しない ±5%程度の電圧調整が安定して出来る (電圧設定器は元の位置に戻すこと) 電圧調整範囲の記録
	周波数	±5%程度の周波数調整が安定してできること
	無負荷運転	異常の有無
	計器類の動作	動作がスムーズで誤差が認められない
	始動、停止操作	異常の有無
	遮断器入切	異常の有無

1-1 自家発電設備

【励磁装置関係】

対象部位等	機器名等	主な点検項目
励磁回路	補助変圧器	異常の有無
	AVR	異常の有無
	シリコン整流器	素子、絶縁部の汚れ、その他異常の有無
	初期励磁回路	異常の有無
	配線	端子の緩み、その他異常の有無
電圧設定器 (SVA) NSVA-1B2 DC100V	動作時間測定	判断基準60秒±5%

対象部位等	機器名等	主な点検項目
絶縁抵抗測定	発電機電機子巻線から 発電機遮断器(52G1)一次	高圧は1000Vメガー使用:6kVは5MΩ以上を標準とする 低圧は500Vメガー使用:0.5MΩ以上を標準とする 但し、半導体回路は除く 発電機、ケーブルを一括して測定する
	発電機遮断器(52G1)二次から 連絡遮断器(52GB11,52G12)	
	連絡遮断器(52G12)二次から 切断遮断器(52GB1)	
	発電機界磁巻線- 励磁機電機子巻線	
	励磁機界磁巻線(J-K)	
	回転計発電機(T/G)	
	発電機スペースヒーター	
	No.1潤滑油プライミングポンプ(88QP1)	
	No.1冷却水保温ヒータ(88WH1)	
	No.1-1給気ファン(88SF11)	
	No.1-2給気ファン(88SF12)	
	空気圧縮機(88A)	
	燃料返油ポンプ 燃料小出槽保温ヒータ(88FTH)	

対象部位等	機器名等	主な点検項目
保護装置試験	1.2号発電機	別紙保護装置試験表による
シーケンス試験	1.2号発電機	始動停止確認 試験表作成
発電機負荷試験	1.2号発電機	別紙発電機負荷試験表による

# UPS 装置定期点検仕様書

## 【無停電電源装置】

### 1 目視点検

#### 1. 1 主回路部品

- (1) ケミコン・オイルコンデンサのふくらみ、液もれ、変色の有無
- (2) 抵抗、トランス、リアクトル類の変色・変形・異臭・その他異常の有無
- (3) 各部締付け部のゆるみ、変色の有無、点検及び増締め
- (4) 絶縁物の割れ・ヒビの有無

#### 1. 2 制御回路

- (1) カード内部品（基盤、トランジスタ、IC、抵抗、コンデンサ類）の過熱、変色の有無
- (2) ノイズキラー用ダイオード、コンデンサの異常の有無
- (3) コネクタ部の点検

#### 1. 3 清掃

キュービクル外装、内装の汚れ、埃等異物の除去

### 2 絶縁抵抗測定

大地間の絶縁測定

### 3 制御回路点検（試験で制御回路のみ運転とする）

#### 3. 1 制御電源出力点検

#### 3. 2 起動シーケンス点検

### 4 運転試験（単機）

#### 4. 1 起動、停止 5 回以上実施、及びブレーカー類のトリップ機構の確認

#### 4. 2 シーケンス保護連動試験及び表示回路の確認試験

#### 4. 3 停電試験

#### 4. 4 無負荷で各部ユニットの電圧及び波形チェック

#### 4. 5 運転中振動を与え異常の有無を確認

### 5 出力切換試験

#### 5. 1 インバーターとバイパス電源との各種切換試験

### 6 その他

#### 6. 1 運転状況調査及び記録

#### 6. 2 予備品及び付属品の保管状況の調査

#### 6. 3 運転中の振動、異臭発生の有無

## 【分電盤及び制御盤】

### 1 目視点検

#### 1. 1 母線関係

- (1) 異物混在の有無のチェック
- (2) 過熱、変色の有無

#### 1. 2 盤内

- (1) 制御回路のゆるみの有無と増締め
- (2) 機器の取付け状態・破損・過熱・変色・変形・錆、剥離等の有無の点検
- (3) 異物混在の有無と塵埃の除去
- (4) 端子台の破損、マークの脱着確認
- (5) ケーブルの接続処理及び絶縁ギャップ等の異常の有無

#### 1. 3 筐体

塗装の剥離、損傷の有無点検

### 2 手動操作点検

扉の開閉、ロック異常の有無の確認

### 3 通電チェック

## 故障警報ブザーの点検

### 【据置蓄電池】

#### 1 現状点検

- 1.1 浮動充電中の蓄電池総電圧
- 1.2 静止中の単電池電圧または電池ユニット電圧、内部抵抗測定

#### 2 目視外観点検

- 2.1 接続部のゆるみの有無
- 2.2 金箱、スチールラックの汚損、損傷の有無
- 2.3 液漏れ、発錆の有無

#### 3 接続部の増締め

- 3.1 接続部に緩み等、異常が無いか、適正トルクで締付けられているか

#### 4 清掃

電槽及び蓋などの汚れの除去



# デジタル強震計保守点検仕様書

## 1. 機器設定及び動作確認

項目	内容	備考
1. 点検前確認	(1) 表示ランプの確認 (POWER 点灯・RUN 点灯・REC 消灯・CAL 消灯・PS 消灯・HLT 消灯) (2) 外観検査 (3) 時刻確認及び校正 (4) 動作回数の確認 (5) メモリーカード残量確認 (6) データ回収 a)メモリーカードの回収の有無 b)PC へのデータの回収の有無 c)メモリーカードの ERASE の実施有無	EQ/回、CAL/回 FULL100. 0%
2. 機器設定確認	(1) 起動に関する設定 a)起動レベルの確認 b)停止レベルの確認 c)トリガーモードの確認 d)起動判定 e)正秒起動の確認 f) スーパートリガー確認 g)起動チャンネルの確認 h)自動点検時刻の調整	0.1~99.9Gal 0.1~99.9Gal level / average 起動レベルに対する倍率が 99.9Gal 以下 Ch1~9
3. 記録時間に関する設定	(1) 記録時間の確認 (2) 記録停止時間の確認 (3) 遅延時間の確認 (4) サンプリング (5) 記録モードの確認	15~600sec 30~120sec 00~60sec 5/10/20/50/100/200Hz
4. CAL に関する設定	(1) CAL モードの確認 (2) CAL TIME の確認 (3) AMP フルスケールの確認	15~99sec Ch1~9
ディスプレイ表示設定	(1) 表示モード設定確認 (1:省電力モード、2:通常モード、3:テストモード) (2) 表示ホールド時間の確認 (3) 演算チャンネルの確認	気象庁検定表示 1~99min Ch1~3 は常に表示 Ch4~6 Ch7~9
通信に関する設定 【ポート 1.2 共通】	(1) モデム初期化時刻の調整	

## デジタル強震計保守点検仕様書

項目	内容	備考
通信に関する設定 【ポート1】	(1) 端末設定(DCE)1: 公衆回線用モデム、2: 専用回線用モデム、3: ターミナルアダプタ、4: 直結) 確認 (2) RS-232C 通信速度(BAU)確認 (3) データ転送チェックサム(BCS)確認 (4) ターミナルコール(TCA)確認 (5) Auto dial No(DAL)確認 (6) 通報条件(RSM) (1: 無手順 2: 建設省方式準拠 3: 気象庁方式) 確認 (7) モデム初期設定(ATC) (8) ダイアル回線種別(ATD)確認	外部接続の有無
通信に関する設定 【ポート2】	(1) 端末設定(LDCE) (1: 公衆回線用モデム、2: 専用回線用モデム、3: ターミナルアダプタ、4: 直結) 確認 (2) RS-232C 通信速度(LBAU)確認 (3) データ転送チェックサム(LBCS)確認 (4) ターミナルコール(LTCA)確認 (5) Auto dial No(LDAL)確認 (6) 通報条件(LRSM) (1: 無手順 2: 建設省方式準拠 3: 気象庁方式) 確認 (7) モデム初期設定(LATC) (8) ダイアル回線種別(LATD)確認	外部接続の有無
接点出力設定	(1) 接点出力種別確認 1: 重故障 2: 軽故障 3: 起動 1 4: データ無効 5: 起動 2 6: 計測能動 7: SI 値 8: 合成加速度 (2) リレー動作時間確認 (3) リレー信号設定確認	計測震度 0.1~7.0 SI 値 0.1~999.9 合成加速度 0.1~999.9  0~999sec
その他設定	(1) High pass フィルターの確認 (2) 起動フィルターの確認 (3) ソフトのバージョンの確認	
設定値の確認	(1) バッテリー1 電圧 (2) バッテリー2 電圧(外部バッテリー接続時のみ) (3) 直流入力電圧 (4) デジタル電源 (5) +側アナログ電源 (6) 内部温度 (7) バッテリー1 充電電流	10.2~18.0V 10.2~18.0V 14.25~18.0V 4.75~5.2V 14.2~15.8V 0~60℃ 0~800mA

## デジタル強震計保守点検仕様書

2. 収録データのダウンロード及び地震データの再生波形・データ整理
3. 検出器の絶縁抵抗測定及び線間抵抗測定
4. 常時微動をメモリーカードに記録し、波形再生ソフトで波形を再生し低域での検出器動作を確認
5. キャリブレーションをメモリーカードに記録して、波形再生ソフトにて波形再生し高域での検出器動作を確認
6. テストコイルに起動レベルを超える電流を印加し各モードで正しく起動・記録することを確認

自家発電設備定期点検仕様書

点検項目	点検内容	周期	備考
1.発電機室等	①小動物が侵入するおそれのある開口部の有無を点検する。 ②消火器の有無を点検する。 ③取扱者以外の者の立入禁止措置が行われていることを確認する。 ④保守用 I ビーム、チェーンブロック等にさび、取付けボルトの緩みの有無を点検し、作動部の動きが円滑であることを確認する。 ⑤廃油処理が行われていることを確認する。 ⑥照度を測定し、点検及び操作上必要な照度が確保されていることを確認する。 ⑦各設備、各機器、建築物等との保有距離が保たれていることを確認する。 ⑧点検上及び使用上障害となる不要物が置かれていないことを確認する。	6M 6M 6M 6M 6M 6M 6M	
2.本体基礎部等	①共通台板の取付け状況及び基礎ボルトの変形、損傷等の有無を点検する。 ②防振装置（防振ゴム、ばね、ストッパー）のひび割れ、変形、損傷及びたわみの有無を点検する。 ③附属機器の取付け状態及び取付けボルトの点検を行う。 ④原動機と発電機との軸継手部の損傷、緩み等の有無を点検する。また、たわみ軸継手を使用されているものは、緩衝用ゴムの損傷等の有無を点検する。	6M 6M 1Y 1Y	
3.原動機 a.ディーゼル機関 ・ガス機関	①原動機の据付け状況を点検する。 ②各部の汚損、変形等の有無を点検する。 ③機側の各配管等に燃料、冷却水、潤滑油、始動空気等の漏れがないことを確認する。 ④クランクケース、過給機、燃料ポンプ、调速機等各部の潤滑油量が適正であることを確認する。 ⑤潤滑油の汚れ及び変質の有無を点検する。	6M 6M 6M 6M 6M	紙フィルターは交換する。
4.発電機	①発電機本体、出力端子保護カバー等の変形、損傷脱落、腐食等の有無を点検する。 ②発電機の巻線部及び導電部周辺に付着したほこり、油脂等による汚損の有無を点検し、乾燥状態にあることに確認する。 ③スペースヒータ及び回路の断線、過熱等の有無を点検する。 ④接地線の断線、き裂及び接続部の緩みの有無を点検する。 ⑤ブラシレス発電機の場合は、回転整流器等の取付け状態を点検する。 ⑥軸受等の潤滑状況の良否、変質及び汚損の有無を点検する。	6M 6M 6M 6M 6M 1Y	

点検項目	点検内容	周期	備考
5. 発電機制御盤類 【発電機盤、自動 始動盤、補機盤】 a. 盤本体・内部配 線等	①盤本体、扉、ちょう番、ガラス窓等の損傷、さび、変形、腐食等の有無を点検する。	6M	
	②主回路及び制御用、操作用、表示用等の配線に腐食、損傷、過熱、ほこりの付着、断線等の有無を点検する。	6M	
	③主回路端子部、補機回路端子部、検出部端子等の接続部分及びクランプ類に腐食、損傷及び過熱による変色の有無を点検する。	6M	
	④碍子類、その他の支持物に腐食、損傷、変形等の有無を点検する。	6M	
	⑤接地線の断線、腐食及び接続部の損傷等の有無を点検する。	6M	
	⑥スペースヒータ及び回路の断線、過熱等の有無を点検する。	6M	
b. 盤内機器	①自動電圧調整装置(AVR)の変形、損傷、腐食、ほこりの付着、過熱及び接触不良の有無を点検する。	6M	
	②交流遮断器は、3.3.3「交流遮断器(真空遮断器、油遮断器、ガス遮断器)」による。	6M	
	③計器用変成器は、3.3.5「計器用変成器」による。	6M	
	④指示計器、表示操作及び保護継電器は、3.3.11「指示計器、表示操作及び保護継電器」による。	6M	
	⑤配線用遮断器等の開閉器類は、3.3.12「低圧開閉器類」による。	6M	
c. 制御回路部	①制御電源スイッチ、自動、手動切替スイッチ、自動始動制御機器等の操作及び取付け状態の良否並びに汚損、破損、腐食、過熱、異音、異常振動等の有無を点検する。	6M	検出用スイッチ を作動させて運 転してもよい。
	②補機盤は、次による。 ・補機用電源スイッチ(始動電動機、充電装置、空気圧縮機、室内換気装置、燃料移送ポンプ等)の操作及び取付け状態の良否並びに汚損、破損、腐食、過熱、異常音、異常振動等の有無を点検する。 ・補機運転用検出スイッチを短絡又は開放して、自動運転ができることを確認する。	6M	
		6M	
6. 始動用装置類 a. 空気始動設備	①附属の圧力計により始動用空気圧力が適正であることを確認する。	6M	
	②空気圧縮機の潤滑油の漏れ、汚損、変色等の有無及び油量の良否を確認する。 空気圧縮機等の作動に異音、異常振動及び過熱がないことを確認する。また、充気装置の動作状態が適正で上限及び下限の空気圧力が規定値内であることを確認する。	6M	
		1Y	
b. 燃料槽	①燃料タンクの貯油槽を油面計により点検し、併せて油面計の動作の良否を点検する。また、滑車式油面計は、滑車の動作の円滑性及びワイヤ等の損傷の有無を点検する。	6M	
	②燃料タンク、配管及び各種バルブの状態並びに取付けボルトの異常の有無を点検する。	6M	

点検項目	点検内容	周期	備考
c. 冷却水ポンプ	③燃料タンク用通気金物の引火防止金網の脱落、腐食等の有無を点検する。	6 M	実動作が不適当な項目については模擬動作を行う。
	④燃料タンクの燃料油の水分含有量について点検する。	1 Y	
	⑤地下燃料タンクのマンホール内部のさびの有無を点検する。	1 Y	
d. ラジエータ	①本体と電動機との直結部分が正常であることを確認する。また、軸受部分からの漏水の有無を点検する	6 M	
	②ポンプの共通ベース及び基礎ボルトの損傷、緩み等の有無を点検する。	1 Y	
7. 絶縁測定	次の機器、回路別に絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 ・発電機関係 ・機器及び機側配線 ・電動機類	1 Y	
8. 運転機能			
a. 試運転	①始動タイムスケジュール及びシーケンス（自動動作状況）を確認し、自家発電装置が自動運転待機状態にあることを確認する。	6 M	
	②始動前に自家発電装置の周囲温度、原動機の冷却水及び潤滑油温度を測定する。ただし、ガスタービン は、冷却水の温度測定を除く。	6 M	
	③運転中、下記計器類の指示値が規定値内にあることを確認する。 ・電圧 ・周波数	6 M	
	④運転中に異音（不規則音）、異臭、異常振動、異常な発熱、配管等からの漏れの有無を点検する。	6 M	
	⑤保護装置の検出部を短絡又は動作させ、遮断器の遮断、原動機停止の機能、表示及び警報が正常であることを確認する。	6 M	
b. 保護装置	保護装置の検出部の動作を実動作又は模擬動作で試験し、動作地が設定値どおりであることを確認する		

運転試験は6 Mは無負荷、1 Yは負荷状態で実施する。